
資料4

モニタリング調査の概要

目次

4.1 モニタリング調査の概要.....	資料4-1
----------------------	-------

4.1 モニタリング調査の概要

①当初モニタリング調査の実施（4月～7月）

4月に事前調査、5月下旬に試験施工を実施し、6月から7月まで当初予定のモニタリング調査を実施した。

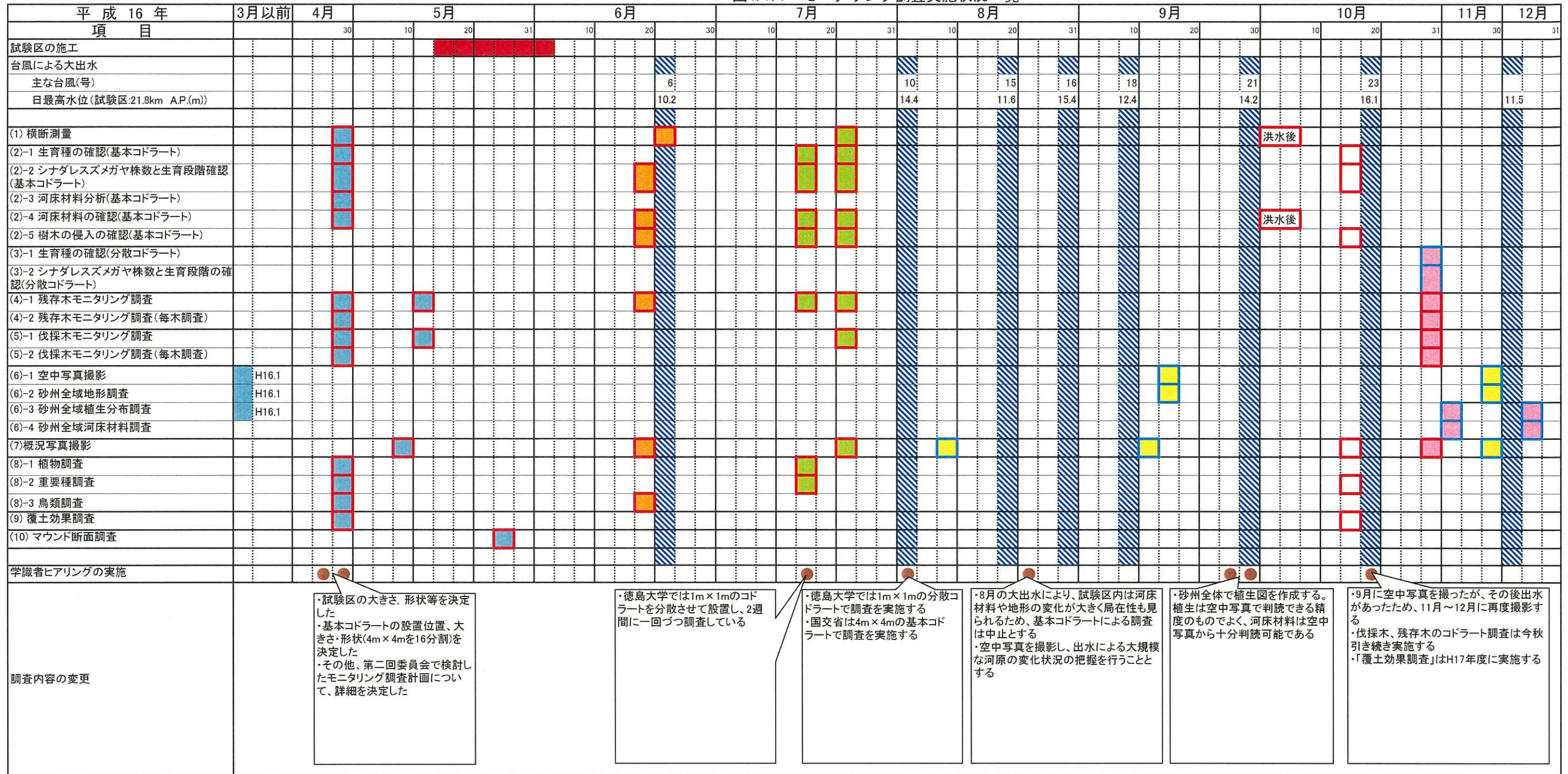
②モニタリング調査の計画変更・実施（8月～12月）

8月から10月にかけて台風による大規模な出水が数回発生し、調査地区の植生・地形が大きく変化したことにより、8月以降当初の予定通りの調査が実施できなかった。このため、当初モニタリング調査計画を変更した。

主な変更点としては、当初実施していた4m×4mの基本コドラートによる調査を1m×1mの分散コドラートに変更した。また、試験区のある砂州全体の変化が顕著であるため、砂州全体の空中写真を撮影し、地形、植生、河床材料を把握する調査を追加して実施した。

モニタリング調査の詳細については、参考資料1に示す。

図4.1.1 モニタリング調査実施状況一覧



- 凡例
- 事前調査(4~5月)
 - 施工直後調査(6月)
 - 夏期調査(7月)
 - 秋期調査(10月~12月)
 - 洪水後調査(8~11月)
 - 台風による大出水
 - 当初予定の調査
 - 追加された調査

・試験区の大きさ、形状等を決定した
 ・基本コドラートの設置位置、大きさ・形状(4m×4mを16分割)を決定した
 ・その他、第二回委員会で検討したモニタリング調査計画について、詳細を決定した

・徳島大学では1m×1mのコドラートを分散させて設置し、2週間に一回づつ調査している

・徳島大学では1m×1mの分散コドラートで調査を実施する
 ・国交省は4m×4mの基本コドラートで調査を実施する

・8月の大出水により、試験区内は河床材料や地形の変化が大きく局在性も見られるため、基本コドラートによる調査は中止とする
 ・空中写真を撮影し、出水による大規模な河原の変化状況の把握を行うこととする

・砂州全体で植生図を作成する。植生は空中写真で判読できる精度のものでよく、河床材料は空中写真から十分判読可能である

・9月に空中写真を撮ったが、その後出水があったため、11月~12月に再度撮影する
 ・伐採木、残存木のコードラート調査は今秋引き続き実施する
 ・「覆土効果調査」はH17年度に実施する



図 4.1.2 モニタリング調査実施箇所